

令和7年度 図書館だより 〈第1号〉

令和7年4月23日（水） 群馬県立太田フレックス高等学校図書室 発行

読書推進運動協議会・若い人に贈る 読書のすすめ 2025

新たな一歩を踏み出すフレッシュなあなたに

読書推進運動協議会2025・若い人に贈る24冊を以下に紹介します。
図書室の特設コーナーに展示していますので、ぜひ足を運んでください。

『経済評論家の父から息子への手紙』 山崎元／著 Gakken

これからを生きる息子へ、そして、すべての読者に向け、自身が長年追究してきた、お金と人生、幸せについて、いちばん大事なことを、書き下ろした最後の1冊。

『注文に時間がかかるカフェ たとえば「あ行」が苦手な君に』 大平一枝／著 ポプラ社

「いらっしやいませ」、メニュー、代金。吃音でそれらが言えず、接客アルバイトを諦めていた若者がいた。エッセイの名手・大平一枝が描く、温かな感動の物語。

『あらゆることは今起こる』 柴崎友香／著 医学書院

「ある場所の過去と今。誰かの記憶と経験。出来事をめぐる複数からの視点。それは私の小説そのもの」と語る著者の日常生活やいかに。SF じゃない並行世界報告！

『あつという間に人は死ぬから』 佐藤舞／著 KADOKAWA

今、この瞬間をどう生きますか？ 自己啓発の「常識」を統計で叩き潰しまくった末に見えた「希望」とは？自己啓発はコレで終わり。最後の「自己啓発書」ができました！

『バッタを倒すぜアフリカで』 前野ウルド浩太郎／著 光文社

世界中を飛び回ってのフィールドワークと実験は、深刻な食糧危機の原因となるバッタの大量発生を防ぐ可能性を持っていた！画期的な研究内容がバールを脱ぐ。

『今さら聞けない 睡眠の超基本』 柳沢正史／著 朝日新聞出版

睡眠不足からくるパフォーマンス低下やメンタル疲労…etc. その悪影響は想像以上です。睡眠研究の第一人者による最新の睡眠科学がわかる1冊。

『宙わたる教室』 伊与原新／著 文藝春秋

年齢も背景も異なる定時制高校の生徒たちが科学部を結成＆前代未聞の実験に挑む——。実話に着想を得た胸熱の青春小説に共感の声が続々！ドラマ化でも話題に。

『成瀬は信じた道をいく』 宮島未奈／著 新潮社

成瀬の人生は、今日も誰かと交差する。「ぜぜカラ」ファンの小学生、娘の受験を見守る父、観光大使になるべく育った女子大生……。読み応えパワーアップの全5篇！

『きみのお金は誰のため』 田内学／著 東洋経済新報社

元ゴールドマン・サックスのベストセラー作家が描く青春「お金」小説！子どもでも楽しめて大人の教養になる！今さら聞けない「お金の不安や疑問」を物語で解説！

『夜と跳ぶ』 額賀澤／著 PHP研究所

切り撮れ、その一瞬を。スケートボードの《消えた金メダリスト》×崖っぷちの中年カメラマン——熱き二人が魅せる新感覚スポーツ青春小説シリーズ第1巻。

『喫茶おじさん』 原田ひ香／著 小学館

57歳・バツイチ・無職・無趣味の松尾純一郎が、仕事にも家庭にも問題を抱えながら純喫茶をめぐる一年の物語。人生はままならないが、コーヒーは今日もうまい！

『アナタノキモチ』 安田夏菜／著 文研出版

母親に置き去りにされた5歳のハルくん。わたしの家に引き取られた彼には、障がいがあった。空気を読めない。人の気持ちもわからない。でも、わたしはどうだろう。

『あなたの言葉を』 辻村深月／著 毎日新聞出版

あの時、のみこんだひとと言。いま感じている気持ち。その言葉はいつか必ず、あなたを助けてくれる。さあ、一緒に「あなたの言葉」を探しにいきましょう。

『休むヒント。』 群像編集部／編 講談社

休みの日、何もせず気づけば夕方になっている——そんなあなたに！豪華33名の執筆陣が自身の休み方を赤裸々に紹介。「休む」を見直すエッセイ・アンソロジー！

『迷いのない人生なんて』 共同通信社／編 岩波書店

共同通信の好評連載「迷い道」を書籍化。家族との葛藤、仕事の失敗、親しい人との別れ、挫折……。迷いを抱えながら生きる人への共感とエールを込めた1冊。

『君の声が聴きたい』 NHK「君の声が聴きたい」プロジェクト／著 双葉社

「君の声が聴きたい」は、2022年5月にNHK がスタートさせたプロジェクトです。本書は、そこに寄せられた「みんなの声」の一部を書籍としてまとめた1冊です。

『ネットでいじめられたら、どうすればいいの？』 春名風花／著 河出書房新社

誹謗中傷や嫌がらせなどのSNSいじめ。見えづらいいじめの対応策と心のケアを、弁護士、精神科医などの専門家らと考えた。あなたと大事な誰かを守る1冊。

『根っからの悪人っているの？』 坂上香／著 創元社

著者と10代の若者たちが「サークル（円座になって自らを語りあう対話）」を行った記録。犯罪被害の当事者をゲストに迎え、「被害と加害のあいだ」をテーマに語りあう。

『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』 三宅香帆／著 集英社

労働と読書の歴史をひもとき、「仕事と読書」のあり方の変遷をたどる。そこから明らかになる、日本の労働の問題点とは？すべての本好き・趣味人に向けた渾身の作。

『「何回説明しても伝わらない」はなぜ起こるのか？』 今井むつみ／著 日経BP

人は、自分の都合がいいように、いかようにも誤解する生き物です。では、都合よく誤解されないためにどうするか？自分の考えを“正しく伝える”方法は？

『世にもあいまいなことばの秘密』 川添愛／著 筑摩書房

「この先生きのこるには」「大丈夫です」これら表現は、読み方次第で意味が違ってこないか。このような曖昧なことばの特徴を知れば、余計な誤解もなくなるはず。

『読書は鼻歌くらいでちょうどいい』 大島梢絵／著 辰巳出版

読書インフルエンサー大島梢絵さんの初著書となる読書エッセイ。読書初心者には、本好きさんになる出会いの1冊に。本好きさんには、もっと本が好きになる1冊に。

『考え方ひとつで明日はもっとうまくいく』 内藤誼人／著 明日香出版社

結局、今のわたしが一番いい！心からそう思える100のヒントをまとめました。ポジティブ心理学の知見にもとづき、考え方や行動のどこを変えたらいいかを解説。

『生きのびるための事務』 坂口恭平／原作 道草晴子／漫画 マガジンハウス

「自分に自信がない」「ハードルを高く設定しがち」「悩んで行動に移せない」足らないことは《事務》でした。《事務》ってめちゃくちゃ大事！ってことが漫画でわかる本。